

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 1月 第107号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

謹 賀 新 年

今年は2010年。21世紀も十分の一の年月が過ぎました。

世界で最も平和な日本で、2100年には人口が5000万人を切ると予測され、生物の基本的な本能の『種の保存』が危うい状態になっています。

人には2つの大きな役割があります。1つは、自らの遺伝子を子供に伝えて種の保存を図る役割であり、もう1つは、社会を構成して生きる為の思想を伝える役割です。生殖機能を失った個体が、その後も長く生きる動物は人間のみであり、高齢期の生活には、遺伝子では伝わらない精神的な営みを伝える、社会人としての大切な役割があります。

高齢者が要介護となって生きる暮らしと、その暮らしを支える介護は、社会を構成して生きて行かざるを得ない人間にとって、社会人として求められる最も重要な思想を確立する為の、原体験の宝庫です。自らの老いと死を巡って迷ったり悩んだりする経験が、そして介護を通しての苦悩や葛藤が、何時の日にか、暮らしを支える思想として実を結びます。

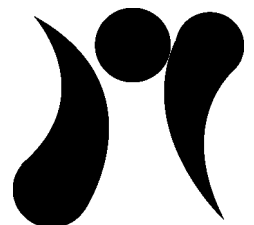
介護者は、要介護者の創る世界に身を置き、その人と一体感を持って暮らしを眺め、その場の居心地を楽しむ感性や感覚を学ばねばなりません。其処で、人生の最終章を支える生命力の礎が、老いに伴う変化に対して融通無碍に応じる柔軟性のある感性や感覚である事に気付きます。

老いに伴い知性や理性や体力が徐々に低下する中で、自然の移ろいを感じる時、人の気配や視線に気付くとき、生活の匂いや雰囲気に含まれるとき、多くの関係性の中で生きていることを感じ取り、今在る事を感謝し安堵する心が、完結に向かう生命とその暮らしを支えています。

そして介護現場で学ぶその感性や感覚が、自らが老いを生きる場面で、非常に大きな役割を發揮してくれるのです。人生の最終章を支える生活力と生命力の礎となる感性と感覚が、介護業務の中で培われる事を心に留め、介護職として迷い悩み、共に心地良い居場所を探りながら、人生を締め括る姿に寄り添う幸せに心より感謝いたします。

2010年 元旦

せいりょう園 渋谷 哲



1985年10月にせいりょう園が発足し、満25年を迎えます。20世紀末から新世紀初めに掛けての、大きな変革の中での25年間でした。

2000年4月に介護保険制度が発足し、まもなく満10年を迎えます。高齢化のピークとなる2025年～2035年に向けて、現在の方針を貫くべきか、軌道修正を図るべきか、社会全体としても、個別の事業者としても、重要な判断を下すべき時を感じます。

この1年間をかけて、様々な角度から検討を加え、これからの25年間のせいりょう園の指針となるべき介護の心得や理念について見解を提示し、皆様に議論して戴き、ご意見を頂戴したいと考えています。

1 高齢期と介護

高齢期は人生の最終章・完結編。生物体の宿命として自らの生命を完結させ、社会の一員として自らの人生を締め括る大切な時期です。自らの最期を迎える姿を通して、子供たちのみならず生活に係わりを持つ人々に、遺伝子では伝える事のできない原体験とも言える貴重な経験を提供し、社会人としての役割を終えて人生を締め括ります。終り善ければ全て善し。

全てのお年よりが、自らの生活の一場で最期を迎えられるように支える事が介護の役割であり、家族にとっても、介護職にとっても、人生を締め括る姿を見届ける経験が、やがては自分が老いに向き合う場面で大きな力となって、我が身を支えてくれます。

2 現状認識と基本的課題

家庭であれ施設であれ現在の介護現場は、最期の瞬間を先延ばしする対応を優先し、生活の中で最期を受止める精神的な余裕を失っています。

介護サービスを利用しながらも、家族による虐待も増え続け、長年に亘って懸命に介護する善良なご家族が、心中や殺人で解決を図る事態も続発しています。ご家族にとって介護は、依然として精神的な疲労を伴う犠牲や負担であり続けており、家族の会では、お互いに愚痴を訴えあう事でリフレッシュを図ることが主眼とされています。

介護事業所では、要介護にならないように、重度化しないように、との取組が高く評価され加算要件となる一方で、重度化や死亡に繋がる事故についての安全配慮義務が強く求められ、苦情やクレームへの対応に職員が精神的に疲労しています。

在宅か施設かを問わず、介護者を精神的に疲労させない介護現場を実現する事が、最も大きく切実な、そして最も基本的な課題です。

介護者の集いー認知症サポーター養成講座ー テーマ「住み慣れた場所で過ごすためには」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

皆さんは、どこで人生の最期を迎えたいと考えていますか。病院ですか。老人ホームのような施設でしょうか。それとも住み慣れた場所で最期を迎えたいと考えていますか。およそ6割の方が住み慣れた自宅で亡くなりたいと願っているのだそうです。では、現実にはどうでしょうか。本当に自分の願いの通りに自宅で最期まで生活が出来ているのでしょうか。その願いが叶う社会になっているのでしょうか。

今回の介護者の集いでは、自宅で最期まで過ごしたいと願いながらも、それが叶わなかった「仙人の事例」をもとに皆さんと話し合いました。

「仙人の事例」

民生委員さんから「地域に住んでいる一人暮らしの方で今にも死にそうな人がいるんです!!」と連絡がある。話を聞くと本人は、80歳後半の男性で、自分の家で一人暮らしをされており、民生委員が訪問したところ倒れている本人を発見したとのこと。会話は出来る状態なので「大丈夫か?」と聞くと「大丈夫」「ほっといてくれ」と答えるとのこと。救急車を呼ぶかどうか本人に確認すると「病院には行きたくない」と答えるとのこと。

何故、ほっておいて欲しいのか?本人のことをもっと知りたいと思い、本人に会いに行きました。

本人宅には、家族、連絡をくれた民生委員、近所に住んでいる地域の方、生活保護受給者ということもあって行政職員、支援センターの相談員で向かいました。

本人宅を訪れると、頭はキレイに禿げ、顎にはまっ白な長い髭を蓄えている仙人のような姿をしている方が、三角座りで毛布にくるまった状態で横に倒れていました。仙人は横になったまま私達を上目使いで見っていました。

下半身が裸で、おしっこも便も垂れ流し状態で、痩せこけていて骨と皮といった状態でした。手は真っ黒で爪の間には黒い便がみっちり詰まっていました。

一応、本人に「大丈夫ですか?」と声をかけてみる。本人の口から出た言葉は「私は大丈夫です。帰ってください」でした。「どこか痛いところはないですか?」と聞くと「痛くないです」と答える。「困っていることはないですか?」と聞くと「何も困っていない〜」と答える。「寒くないですか?」と聞くと「寒い、寒い〜」と答えるので「服を着替えましょうか?」と聞くと「ほっといてくれ〜風邪をひく〜」と答えました。「病院に行かなくて良いですか?」と聞くと「なんで?」と聞くので「私にはしんどそうに見えます」と言うと「勝手に決めるな〜アホ〜」と言われました。さらに「病院へ行ったら風邪をひく〜どこにも行きたくない、ここにいたい」とのことでした。「ここで死んでもいいんですか?」と聞くと、「死んでもいい、自分で決める」とのことでした。

本人には会話理解があり、自分の名前や住んでいる場所、生年月日などを答えることができましたが意識が混濁することもありました。今では寝返りをうつことが精一杯のようです。

近所の方の話では、以前は杖をついて近所のスーパーまで買い物に出かけていたとのこと。声は大きいので時々、何か叫んでいるのが聞こえることもあるそうです。

もともと家族とは疎遠な関係であり、関わりに対しても拒否があったそうですが、毎日枕もとにパンと牛乳を置いて帰っていたとのこと。ここ最近になって自力で食べることも出来ず、食事は残しているようです。



グループワークの様子

本人と会うことができ、分かっている情報をもとに家族、民生委員、地域の方、行政職員、相談員で本人の今後の生活について話し合いをしました。

○グループワーク

「もし、自分が地域の一員としてその場に居合わせたなら、どう判断するか」

- ・医療的な処置が必要な方は、救急車を呼ぶべきではないでしょうか。
- ・寝たきりになった原因が骨折かもしれないので、病院で検査してもらったほうが良い。

- ・火事も心配なので近所迷惑になるのでは。仙人のような方こそ施設に入所すべきでは。
- ・一市民の出来ることを越えてしまっているのでは。行政の判断に委ねます。
- ・法的に仙人をこのままの状態でもらってよいのか判断に困る。

「事例を聞いての感想」

- ・事例の仙人のような姿になる前に何故発見できなかったのだろうか。早く発見出来ていれば他に選択肢があったのかもしれない。
- ・生活保護を利用していても介護保険が使えることを知らなかった。
- ・新聞が滞っていたり、何かサインがあったのでは。
- ・行政の行っている緊急通報システム（あんしんボタン）を設置すればどうか。ボタンを押せる状態にある方なのかという問題もある。
- ・地域の関わりや第三者の目が入り見守りがあることは大事だが、個人情報保護法が出来てから他人が関わるのが難しい。
- ・普段から心を許してもらえ関係作りが大切だなと思う。
- ・「死」自体が怖いことなので、仙人のように一人で向き合うことはすごい精神力が必要だと思う。
- ・仙人がキレイにしてくれた人に対してありがたい言葉など、気持ちがいいと思えるような関わりが必要。
- ・お話ボランティアで訪問した時に、一人暮らしされている方の様子を見に行きトイレで倒れている方を発見した。意識ははっきりされていたので、その後に利用する予定のヘルパーに任せた。
- ・自分も子供がいないので将来の自分のことのように話を聞いていた。
- ・人に迷惑をかけずに死にたいので、最期施設で亡くなりたいたい。
- ・仙人になる前に死にたい。
- ・良く似たケースが近所でもあって、その方の意志かどうかは分からないが、救急車で運ばれて病院で亡くなったことがあった。

感想

仙人がどうなったか、事例の続きを簡単に説明します。

話し合った結果、このまま自宅で亡くなるにしる、施設や病院へ行くにしる、まずは人間らしい姿に戻ってもらおうということになり、きれいな体になってもらおうという話になりました。しかし、仙骨部分に小さい褥瘡があったのと、足に痛みがあり骨折をしている可能性もあるということで、結局この方は「病院に行ったら風邪をひくー」と叫びながら

病院に運ばれ、5日後に亡くなりました。酸素マスクをつけられ、口をパクパクしている姿と、拘束されながら点滴を打たれている姿には、それまであった仙人の威厳はまったくありませんでした。

仙人の場合、本人の希望通りに自分の住みなれた場所で過ごし死んでいく、という選択肢があったはずなのですが、私を含め誰も言葉に出すことが出来なかったのです。「死」というものを誰もが避けようとして、本人の思いに伴走することが出来なかったのです。地域社会の中で、老いて介護が必要になり死んでいくということが、避けなければいけないことなのかどうか、話し合う必要があったのだと思います。

少なくとも介護に携わる専門職は、老いと死から逃げずに、本人にとっての生活の質とは何かを考え、選択肢を言葉に出して表現しないといけない、それがゴールまで伴走することである、と仙人の事例から気づかせていただいたように思います。

次回の介護者の集いは？

1月の介護者の集い テーマ「生活の質を考える」

2月の介護者の集い テーマ「認知症のおさらい」

※ テーマは変更になる可能性があります

せいらょう園 毎週の行事

月曜日 のびのびルーム（自彊術）
火曜日 のびのびルーム（映画会）
水曜日 のびのびルーム（カラオケ）
 音楽療法
 自彊術療法
 お話グループ・福寿草の会
木曜日 のびのびルーム（自彊術）
金曜日 ピアノ教室
 陶芸教室

第2火曜日 折り紙教室
第1・3火曜日 書道教室
第2・4金曜日 ひより手芸教室

せいらょう園 2月の行事予定

2月 1日(月) 仏教講話
2月 3日(水) 節分
2月13日(土) 園長との懇談
2月14日(日) バレンタインデー
2月15日(月) 美容の日
2月19日(金) 昼食会
2月22日(月) 理容の日
2月24日(水) 郷土料理
2月26日(金) 介護者の集い
 ～認知症を学ぼう～

せいらょう園 待機者状況

＜平成22年 1月12日現在＞

○入所判定済み者 321名

グループの内訳

Iグループ…112名／IIグループ…137名／IIIグループ…66名

○入所判定済み者の現在状況

在宅119名／特別養護老人ホーム入所中9名／医療機関入院中89名

老人保健施設入所中77名／ケアハウス入居中5名／グループホーム入居中11名／不明5名

辞退その他

他施設入所1名／辞退1名／死去4名

介護士

近藤 衛彦

その他にもドイツでは、リハビリテーション病院、ケア付き高齢者住宅、福祉用具販売店など色々な施設を見学させていただきました。又、今回の研修では、福祉用具がメインということで、リハケア2009という世界各国の福祉用具の展示会に2日、参加させて頂きました。Uバーンという地下鉄でデュッセルドルフのメッセという町にある展示会場まで行きました。メッセ会場はとて広く、福祉用具がおいている小さなブースがいくつもあり、2日間では見る事ができないほどの数で、会場には多人種、多民族、障害者

の方も多く来場されていました。障害者で車椅子を使用している人は、ほとんどが電動の車椅子を使用していました。福祉用具は色々な物があり、高齢者・障害者の物だけではなく、子供用品やスポーツで使われる物、ハイテクな物から、日常生活で使用する物まで幅広い福祉用具に関わる物が置かれていました。1日目に「ドイツにおける福祉用具の認可の申請システム」と「福祉用具の安全確保とその評価」についての最新動向をテーマとする発表会及びドイツと日本の事情についてパネルディスカッションを行い、両国がお互いにビジネスチャンスとすることを目的とした会議に参加しました。福祉用具では、見たことがないほど、様々なデザインの杖があったり、折りたたみ式の電動車椅子があったり、簡単なリモコン操作で、繊細な動きが行える手の代わりをするハイテク機器や、介助なしでも階段を上り下りが出来る車椅子、シャワーが付いていて、ベッドごと洗えるベッド、特別な素材で出来ているエプロンなど、多くの福祉用具を見てきました。福祉用具について、様々な職種の方と色々なブースを見ながら、話していると、職種によって一つの福祉用具でも見方・考え方が違うので、少し視野が広がったように感じました。又、介護現場では利用者の方を主体で考え福祉用具を使用していることが多いと思いますが、福祉用具に携わる仕事をされている方は、もちろん利用される方のことも考えられていますが、同じようにその道具を使う、介護する側のことを非常に意識して、考え



デュッセルドルフ メッセ会場



一番軽い車椅子

られていると感じました。今回、福祉用具の販売・営業・普及に携わる方が参加されましたが、現場で働いていると、このような方々に関わる機会があまりないので、よい経験になりました。施設の介護現場と福祉用具に携わる方と接する機会が増えることで、より福祉用具の発展や普及につながれば良いなと感じました。

今回ドイツの研修で、ドイツという国は、基本的に家族介護の国で、社会保障は、国民の自立を支援する連帯責任と補助支援が原

則になっていました。家族介護者の為の法律があり、介護人に対する社会保障の充実がドイツの特徴でした。介護休暇は6ヶ月、急な突発事項には、10日間の仕事免除、介護が終わった後の再就職までの失業保険などがあり、このように家族介護を基本としても「介護」を社会的な仕事と見て、就労している人と同様の様々な社会保障が得られるそうです。又、日本とは違い、介護職の社会的地位が高と言われていました。それは、介護職が質の高いケアを行っているのか、日本より医療的な事を多くしているのか、はっきりとはわかりませんが、ドイツでの介護に対する意識の高さを感じました。ドイツの介護保険を参考に日本の介護保険は作られましたが、やはりその国の政策、法律、価値観、宗教などが違い、介護保険の中身は、大分違うものでした。どちらも良いところや、問題点がありますが、どちらがよいとかいう問題ではなく、その国にあったものにしていくことが大切だと思いました。

| VII 給付内容 | |
|---|--|
| ドイツ | 日本 |
| 1 在宅介護給付 ・現物給付 384ユーロ～1,432ユーロ ・現金給付 205ユーロ～665ユーロ ・代替ホームヘルプ (家族介護者の休養・旅行等の際の利用) 年4回まで ・ミックス給付 (現物+現金) | ・区分支給限度額 1 居宅サービス等区分(独居・通所・短期入所等) 要支援 1 4,970単位 要支援 2 10,400単位 要介護 1 16,580単位 要介護 2 19,480単位 要介護 3 26,750単位 要介護 4 30,600単位 要介護 5 35,830単位 |
| 2 部分施設介護 ・デイケア ・ナイトケア ・ショートステイ | 2 福祉用具購入費 福祉用具購入費支給限度基準額 100,000円 |
| 3 施設介護 1,023ユーロ～1,432ユーロ 居住費・食費は自己負担 | 3 住宅改修費 住宅改修費支給限度基準額 200,000円 |
| 4 介護者のための給付 ・週14時間以上の無報酬による介護 ・週30時間以上の就労していない 上記2項目、ともに該当する場合に 年金と労災保険の受給対象 | |

介護保険制度 ドイツと日本の比較

今回の研修では、ドイツの色々な施設や福祉機器を見学し、普段では出来ない経験をさせて頂きました。この貴重な経験を現場で活かしていきたいと思えます。

せいのう園のクリスマス・お正月



12月24日 クリスマス会
デイサービスにて



12月24日 紅の会



12月28日 餅つき



おせち



1月8日 初詣
浜の宮神社にて



元旦

平成21年度第3回グループホーム・小規模多機能運営推進会議の報告

- * 日 時： 平成21年11月21日（土）特養せいりょう園にて
- * 参加者： 運営推進委員7名、職員2名、入居者・家族3名、地域包括職員1名
- * 内 容： 行事報告・介護者の集いの報告（9月、10月分）
実習生受け入れ実績報告
インフルエンザ予防接種報告
2市2町グループホーム勉強会の報告（介護川柳）
ターミナル報告（グループホーム入居者 K氏、U氏）

- * 上記記載分報告後に2市2町グループホーム協会の事業「認知症介護研究」のテーマの中の1つ『グループホーム入居者の延命治療について』話し合う
 - ・ 口から物が食べられなくなった時、本人にとってどうすることが幸せなのか
施設長より
 - ・ 家族の希望、又は医療機関の勧めで胃ろう、気管切開を施術した後の生活の中で介護と医療的な処置についての作業分担や費用の負担について関係者と深く議論することが必要である
 - ・ 人生の終末期を迎えている時に不自然な形で延命することが本人のQOLの向上になるのか、認知症の人のQOLと社会の中での存在価値についてそれぞれの関係者と十分に話し合い対処の仕方を決めていくことが必要
 - ・ 1年後に何らかの方向性が見えればと思っている
 - 推進委員より
 - ・ 自身の最期をどうしたいのか、元気なうちに考えを決めて誰かに伝えておきたいと思う
 - ・ 高齢者が増えている今、緊急の課題なのでは

- * 最後に高齢者虐待についてH21年11月21日の新聞掲載の資料を元に話し合う
 - ・ 相談通報件数、虐待と判断された件数共に毎年増加している
 - ・ 地域包括支援センターがもっと深く関われば防止につながるのでは

ケアハウス等空き情報 <平成22年 1月13日現在>

《ケアハウス》

| | | | |
|----------|----------|------------|----------|
| ・シスナブ御津 | : 1人部屋2室 | ・あさなぎ | : 2人部屋1室 |
| ・恵泉 | : 若干 | ・第二ケアハウス恵泉 | : 若干 |
| ・青山苑 | : 1人部屋2室 | ・むれさき苑 | : 1人部屋1室 |
| | : 2人部屋2室 | | |
| ・ケアハウスせり | : 1人部屋5室 | ・香楽園 | : 1人部屋2室 |
| | : 2人部屋1室 | | : 2人部屋1室 |

[問合先]せいりょう園介護相談室

Tel.(079)421-7156/(079)424-3433